



平成24年度会報第2号
平成24年10月3日

(社) 日本山岳会石川支部
支部長 中川 博人

会報 峯

この度、大庭保夫会員ご夫妻のご尽力により、火燈古道が開通し、旧大内村から富士写ヶ岳、火燈山の周回が可能となりました。また、安全登山の一環として、田中康典会員がロープワークの講習会を一般人向けに開催しました。いずれも公益性が高く、山岳会員にふさわしい活動です。公益社団法人の精神を踏襲するこれらの活動に、敬意を表します。

山行・行事報告

1. 自然保護全国集会

- ・ 日程 平成24年6月30日(土)～7月1日(日)
- ・ 場所 「尾瀬高原ホテル」群馬県片品村戸倉
- ・ 参加者 埴崎滋

自然保護集会の詳細は、山2012年8月号(No.807)に掲載されているので、ここではそれ以外について紹介します。冒頭、尾上会長から、以下の挨拶があった。JACも公益社団法人となり「山岳環境の保護と保全」の定款に則り、自然保護委員会の活動も「自然を愛し、護る」との大義に沿った姿勢を迫り頂きたい。また、「山の日制定」については論議を重ねており、6月第一日曜日を軸に10月3日の提唱5団体による全国集会や来年春の決起大会に繋げようとの方向であり、引き続きのご支援を賜りたい。

引き続いて、小泉武栄東京学芸大学教授から「尾瀬の自然学」についての基調講演が以下のとおりあった。

尾瀬は日本の自然保護発祥の地で、20世紀初頭、東京電力のダム計画で埋没の危機にあったが、日本山岳会の武田久吉博士を中心とした各有志の努力により、今日の尾瀬の保全が保たれた。

尾瀬の自然の多様性は、高層湿原、尾瀬沼と池塘、ミズバショウ、ニッコウキスゲに代表される植生、至仏山と燧ヶ岳の成立の異なる地形等であり、

これらの魅力要素を探求することで尾瀬の楽しみ方は倍加する、とのこと。

また、各分科会ではそれぞれの課題が検討されたが、顕著なものとしては、「尾瀬の維持管理費の2億円はこれまで東電から調達されたが、先の大震災で同社の経営状態が悪化し、今後の支援金継続が課題である等。

その他、各支部の主な取組みとしては、次のとおり。

- ・ 山岳トイレ整備＝信濃支部、山梨支部
- ・ 日本鹿対策＝信濃支部、山梨支部
- ・ 山岳レインジャー活動＝山梨支部
- ・ 屋久島を危機遺産リストにせぬために＝福岡支部
- ・ 山の空間放射線量測定

(文：埴崎滋)

2. 火燈古道・火燈山整備

◎7月10日(火) 火燈山頂に標識設置

参加者 木原、前川、大幡、大庭2人、会員の知人4名の計9名。その他福井県の協働者10人
福井県の協働者(堂森明義氏)が作製した標識を火燈山頂に設置。また、関本会員が調達した特級のロープの1本を急坂に張り、3本を山頂にデポ(後日不惑新道の要所に設置)した。また、加賀市消防の山地救助隊10名が非番にもかかわらず、訓練を兼ねて荷揚げの応援があった。

◎7月15日(日) 登山口に石標設置

参加者 大幡、関本、長清、大庭2人、会員の知人の計6名。大内会3名の標柱を立てた。
登山道整備に呼応して大内会(地元関係者の組織)が製作した70kgの石標、セメント、砂利などを大内峠まで運び上げ、大内峠を示す御影石
後日8月25日、下山していたお地蔵が、大内会の人の手によって峠の祠に安置された。

◎8月26日(日) 登山道安全祈願祭 標識設置

参加者 中川、前川、西嶋、前田、安田、西出恵、関本、長清、大幡、太田、広瀬、小田、大庭2人、会員の家族、知人6名の計20名。 その他福井県協働者6名、深田久弥を愛する会6名、その他、大内会関係者多数
大内町白山神社の秋の祭礼に合わせ、登山道の安全祈願。古道は神職のお祓いを受け、参加者は社殿前で揃って柏手を打つ。賑やかな祭りになり、登山関係者は大内会のご厚意によりご馳走になった。なお、祭礼に先立ち、「火燈古道」の標識
板を支部会員で設置して一応の整備・開通の区切りとした。登山道の名称は、地元の長老から、昔あった道との提案による。
(文：大庭保夫 写真：前川陽)



3. 親睦ビアパーティー

- ・日程 平成24年7月21日(土)
 - ・場所 ANAクラウンプラザホテル金沢 ビアテラス (金沢駅前)
 - ・出席者 池内信彦 池本順平 井村喜久夫 大幡裕 岡本明男 木原清 関本邦晴 津田文夫
中川博人 西嶋夫妻 前川陽(友人2名) 前田健進 村上哲(以上16名)
- 山と縁遠くなった先輩会員との親睦を主な目的として、本年から企画。
開始予定の17時半前には1階ロビーに次々と元気に日焼けした笑顔が並び、定刻に揃っ

て会場へ入る。会場は既に若い人たちのグループであふれ、その熱気にやや気後れしながらも、早速ビールや料理を取りに散らばる。ジョッキ片手に元気な乾杯の後は、各グループで、これまでや、これからの山行等の話題で大いに盛り上がる。中でも久しぶりに登場の池内さんの声はダントツに大きく、元気な様子に安心する。夕刻を迎えたホールは陽も和らぎ、時折流れる風が心地よい。終了間際に、白山会会員の村上さんから、同会所有の白山大汝小屋の今後の維持管理に

ついて提案を受ける。扱いについては、今後役員会で検討されるが、歴史ある避難小屋の扱いには慎重な対応が望まれる。19時、終了時間となり一同元気に閉めの乾杯をする。今回は、石森会員の娘さんが当ホテルの宴会担当に勤務で、アドバイスや帰りにご挨拶を受ける。ありがとうございました。

(文・前川陽)

4. 夏山合宿「劔岳」

*今回は、大型合宿を経験した男女2名からの報告です。

- ・ 日程 平成24年7月27日(金)～30日(月)
- ・ 場所 劔岳八ッ峰～北方稜線
- ・ 参加者 岡本明男(CL) 中川博人(SL) 藤江以住 八十島仁 西川輝 櫻井茂紀

前回のリベンジである今回の劔岳合宿に参加したのは、岡本さんをリーダーに中川さん、藤江さん、八十島さん、西川さん、櫻井の6名。ベテラン勢と若手勢がちょうど半々といった参加者になりました。

27日、金沢大学で集合後、車二台にて立山へ。近づいてくる立山にテンションが上がりつつ室堂に到着。去年の合宿と半月ほど早いこともあり残雪も多く、スキーをされている方を横目に雷鳥平へ向かいます。

この日は劔沢までの行程なので特に急ぐ必要もなくのんびりと雷鳥坂を登り、お昼すぎには劔沢に到着しました。早めに到着したからには、やっぱりお決まりのビールで乾杯と言う事で日も高いうちから宴会のスタートです。

今回食料班は櫻井と西川の二人に任せられたので初日だけは豪華にしようと、思い切って鰻井&トン汁にさせてもらいました。皆さんにお褒めの言葉を頂きいい気分での日は終了となりました。

28日、早朝BCをでて長次郎の雪渓をぐんぐん詰めます。5・6のCOLでアイゼンをはずしハーネス装着！ここから6峰ピークに向けて2ピッチ、ロープクライミング。西川&櫻井の素人コンビは倉ヶ岳で数回練習はしているものの本番は初めて。高度感に肝を冷やしつつ何とかピークま

でたどり着きそこからさらに懸垂下降！登っては懸垂下降を繰り返し、途中池ノ谷ガリーではヒヤリとする落石もありましたが無事三の窓へ到着。日も暮れてきていたのでここでビバークし長い一日を終了しました。

29日、起床後早々にツェルトを撤収し、北方稜線へ向かいます。小窓王のガレた急登を登り残雪の多い下りを行います。途中残雪によりルートをロスト。そこから1～2時間ほどルートファイディング。やっとの思いで行けそうなルートを探し当て小窓の雪渓へ到着！そこからは旧劔山道を見つけ、池の平小屋へ。ひたすら炎天下の仙人尾根を下り、真砂沢を經由し劔沢BCに帰還しました。

BC 帰還後情けなくも腹を壊してしまい皆様には多大なご迷惑をおかけしましたことここでお詫び致します。助言通りに病院へ行きました所、腸炎だとのことでおそらく沢の水か体調不良からくるものだったのだと思います。

自分にとっては実力不足が露呈してしまった山行となりました。その分課題も明確になってきているのでいつか克服できる日にむけて精進せねばと肝に銘じております。

(文：櫻井茂紀 写真：櫻井、中川)

< 剣沢合宿に参加して >

まず、参加したメンバーに“ありがとうございます。”と感謝の気持ちを伝えたいと思います。自分自身の山行の長いブランクや若手メンバーについていけるか…etc いろいろ悩んだ末、“これは合宿”と思いきっての参加でした。

今、脳裏には、三ノ窓へ続く池ノ谷ガリーでの落石の軌跡と同時に、振り返った小窓雪溪の、穏やかでやさしい青と白と緑のコントラストが鮮やかに蘇ってきます。

さて、今年の剣は、昨年に比べかなり残雪が多く、若き日に辿った八ツ峰とも全く別の山のような気がしました。昨年の雪の状態や若い頃の経験から、アイゼンは6本でいけると思っていたのですが、雪溪では超へっぴり腰で、アイゼン登行がこんなに怖いと思ったのは初めてでした。ステップを切る手間をメンバーにかけさせてしまいました。



八ツ峰VI峰の岡本 CL

た。

また、池ノ谷ガリーは、浮石が非常に多く、心から“止まって！”と念じてのラク（落石）コールを何回か張り上げました。

三ノ窓のビバークでは、夜の雪溪から吹き上げる風は骨身にしみて、中高年の疲労凍死を想像して夜をすごしましたが、今は元気で平地にいます（笑）

今回の合宿は、あらゆる面で勉強になったと思っています。

雪と岩、アイゼンやピッケルを使いながらのザイルワークや高度感の体得などを剣岳という大きな山の懐で経験させてもらいました。

この経験を通して、個人としては、やはり山はおもしろいと思えたし、会としては、更なる飛躍への一歩となるのではないかと思います。

（文；藤江以住）



八ツ峰VII峰と後方チンネ

5. 杉峠・小原峠 登山道整備兼懇親会

・日程 平成24年9月8日（土）～9（日）

・場所 杉峠（9/8） 小原峠（9/9）

参加者（登山道整備） 大庭保夫 大庭太洋子 織田伸治 北栄一郎 木原清 小畑聡子 澤村真治
関本邦晴 中川博人 内藤千代 西田茂 西嶋鍊太郎夫妻 東野智也 藤江以住 前田健進 16名
（宿泊者）池本順平、大庭保夫、大庭太洋子、北栄一郎、木原清、小畑聡子、関本邦晴、澤村真治、
西嶋鍊太郎夫妻、東野智也、前田健進、織田伸治 13名

9月8日は、朝から曇り空で、嫌な雲行きだった。

朝8時に杉峠の登山口に集合としたはずだが、時間内に集まったのは、5名のみだった。

集合時間に少し遅れて関本さんが来て、残りの人は白峰の総湯の駐車場にいてもうすぐ乗りあって到着するとのことで一安心。やがて全員が揃ったので登山道の整備を始めた。

草刈り機は、関本さん、前田さん、織田の3人が持ってきたが、関本さんの草刈り機のエンジンがかからず、やむを得ず2台ですることになった。

草刈は双方から始め、峠からは織田が、登山口から前田さんと関本さんが草刈り機で刈り、鎌、なた、のこぎりの人が後に続いた。

昼前には、雨が降り出し去年の再来となったが、さして強い雨でなくて幸いだった。午後1時頃までに登山道を苜終え昼飯を食べてから下山した。帰る途中、三谷の林さんの家にあいさつに寄った。

白峰に着いて総湯に入り、夜は宿泊先の織田が借りた甥っ子の家でご苦労さん会を開いた。

当夜の料理は、織田が釣ってきた岩魚と鮎の炭火焼きと池本さんの調達してきたガンドの刺身、豆腐となめこの味噌汁、白峰の堅豆腐の刺身と油揚げの焼いたものに、すき焼きと普段なかなか食べられないもので、12時を回ってもまだ宴会は終わらなかった。

9月9日（日）は、小原峠の登山道整備を行う予定であったが、6月に他のグループが行ったとの情報があったので、草刈り機は持っていわずにどんな状態が見てくることにした。



当日参加予定で草刈り機持参の前川さんにはその旨伝えて来ないでいいと伝える。

本日の集合場所の白峰の総湯に安田さんが来たので、車2台に分乗し午前8時過ぎに三谷の西俣に向かう。工事用道路の最終地点の少し手前で、枯れた大木が道路に横たわり行く手をさえぎっていたので、そこに車を置いて歩いて登山口に向かった。

登山道は、川上御前までは草を刈った気配がなかったが、川上御前から小原峠の少し手前まではきれいに手入れされていた。私たちは、赤兎まで足を伸ばし登山道の状態を見てきた。小原峠から赤兎まではそれなりに整備がされていて手を入れるまでもない状態だった。

本日は、朝の内はやや怪しい天気だったが、後に良くなって道すがら安田さんの植物の名前や説明を聞きながらゆっくり赤兎まで往復して白峰で午後2時過ぎに解散した。

登山道偵察は、安田、池本、木原、小畑、沢村、東野、前田、織田の8名

今後の課題として、杉峠の整備には、草刈機が5台は必要であり、会員の手持ちの草刈機に全面的に頼るのではなく、支部として最低2台は買い揃えて欲しい。

杉峠と小原峠の整備は、同日に行い、鎌やのこぎりの人達は一部を杉峠に残し、小原峠の整備を行うことにする。なお集合場所や時間について、徹底が図れるように工夫が必要かも？

(文：織田伸治 写真：中川)



6. 平成24年中高年安全登山指導者講習会「東部地区」スタッフ支援

- ・日程 平成24年9月21日（金）～23（日）
- ・主催 国立登山研修所 日本山岳協会
- ・主管 石川県山岳協会

- ・場所 白山国立公園センター 白山 御前荘
- ・参加者 石森長博（県山協理事長）織田伸治 木原清 高田和彦（県山協副会長）西田茂
埴崎滋 藤江以住 前田健進 前川陽

中高年安全登山指導者講習会「東部地区」が、24都道県より64名の受講生の参加のもと、開催された。その支援スタッフとして、県山協加盟の13団体より約60名が参加し、JAC石川支部からは9名が参加した。

本講習は、中高年の体力に応じた知識と技能を習得すると共に、中高年登山指導者の養成と安全登山の普及を目指すものである。受講生は、各地区の山岳団体のリーダーや山岳関係諸団体の関係者で、実際に遭難救助活動に携わる消防士等も参加された。

21日は、13時からの開講式の後、3講義を受けた。

① 国立登山研修所の北村憲彦氏は、「中高年登山者の現状と課題」のテーマで講義。山は危険を内在した場所であるからこそ、個人としてもチームとしても事前の準備を怠ってはいけない。また、通信機器の発達で情報が溢れているが、その解釈には注意すること。さらに社会的責任として、計画書提出や保険加入の重要性などを具体的な実例や数値をあげて丁寧に説明された。

② 日本登山医学会の中島道郎医師は、「山で体をこわさぬために」のテーマで、2,000m以上は高所環境になること。その特殊環境への入山前から下山までの医師の目から見た細かな注意点を話された。特に、健全登山のためには、『60過ぎたら2本杖。でも、40以下は不要。』とはっきり言われたのは可笑しかった。

③ トムラウシ遭難事故調査委員もされている金田正樹医師は、「熱中症と低体温症」のテーマで講義。具体的な症状をあげてのわかりやすい内容だった。特にトムラウシ遭難の事故の話は生々しく、平常ではありえない行動を現実にしてしまうのが遭難なのだと改めて思った。

22日は、8班＋フリー班に分かれて白山登山をした。JAC石川は、5班と緊急時対応のフリー班を担当。別当出合で記念撮影後、7時に出発。11時40分迄に室堂に着いた者のみ山頂に向かえるという制約があったため、年齢も出身地も別々な

メンバーなので、当初は山頂に向かう事ができるか心配していた。けれど、受講生は皆さんベテラン揃いで、11時40分、全員で山頂に立つ事ができた。登山中は、消防士の方とは実際の救助の話、群馬の方には尾瀬の様子などを聞いたり、和やかに登山することができた。天気にも恵まれ、山頂ではゆっくりと眺望を楽しむこともできた。山頂で頂いた受講生の女性のお手製のゴーヤの漬物はとてもおいしかった。16時25分、別当出合に下山。週末で他の登山客も多く、下山時には待ち時間がかなりあったが、若い登山者が多いと羨ましがられた。日帰り白山で全班ほとんどの人が完登で来たことはさすが指導者研修だと感心させられた。なお、フリー班では、痙攣等で調子が悪くなった3名をサポートしたが、それでも室堂や五葉坂、弥陀ヶ原までは頑張って登った。夜は、御前荘で交換会が開かれて、受講生や他の山岳会の方々と親交を深める事ができた。

23日は、地元の早川康浩医師の講義を受けた。バランス感覚は、加齢により必ず低下するので日常トレーニングは必要であると強調された。その後、①病気・怪我への対応と予防 ②体力トレーニング ③遭難事故の実態 の3分科会に分かれて議論した。

12時から閉校式を行い、無事3日間の日程を終了。今回はサポーターとしての参加であったが、ベテランの皆さんに囲まれ、本当に有意義な3日間であった。

（文：藤江以住 写真：前川陽）



7. 平成 24 年度第二回役員会議報告

1. 日時 平成 24 年 9 月 28 日（金） 19 時～20 時 40 分
2. 金沢市総合体育館第二会議室
3. 出席者：津田, 中川, 岡本, 関本, 高田, 八十嶋, 田中, 埴崎, 長清, 村上, 前田, 西嶋, 織田, 前川
4. 議案

① 大汝小屋の今後の維持管理について

大汝小屋は国立公園内の私的構築物として、現在白山会が、既得権として所有している。既得権の無い他の法人への移管には無理があり、移管は困難。

支部として支援する場合、それは総会の審議事項となり、当面は有志による支援となる。

有志は現時点では未定だが、今後、大汝小屋を訪れた者は小屋の状況等を知らせて欲しい。

なお、窓口は正式に決まるまで、当面は支部長とする。

② 支部ルームの開設について

支部ルームの開設については、前回（7 月 8 日）の役員会議で決定済みであり今回は、概容について提供者の関本さんから次のとおり説明があった。

ルームは、14～5 名ぐらい収容可能であり、支部へは無償貸与と言う形になる。現在造作中であるが、廃材等を利用しており、支部への経費負担を求めるつもりは無い。

③ 自然観察会について

埴崎さんから原案の説明があり、付則として「部外参加者は支部会員・会友の紹介で共に参加しフォローすること」で、原案どおり承認。

④ 岐阜支部創立 40 周年記念式典

山祭りと日程がダブったため、山祭りを廃止したい旨の提案があったが、呼称を替え新年会として、実施する。

友好支部の記念式典であり、至急支部内の協力参加要請を行なう。

以上

8. ロープワーク講習会

- ・日程 平成 24 年 8 月 5 日（日）
- ・場所 マムート金沢店
- ・講師 田中康典 会員
- ・参加者 木原清 村上哲 八十嶋仁 他一般 10 名

最初に田中康典講師から、ロープワークはクライミングのみならず、一般の縦走でも気軽に使用して、危険回避に備えていただきたい旨の挨拶有り。引き続き実技に入り、最初に、みんなの前で、ゆっくりと分かりやすく手本を示してくれる。

田中さんや助手の方は受講生の周りを回って、丁寧に指導されていた。

支点の木柱に、各々の結び方で挑戦し苦労してい

た受講生も、講師から直接指導を受け、基本的な結び方はマスターできた感じでした。

練習内容は基本の結び方（7 種類）でしたが、途中から馴染みのない「ミュー・ノット」という結び方を教わる事が出来ました。

講師、受講生共に一生懸命の大変有意義な講習会でした。

(参考)

1. ダブル・フィギュア・エイト・ノット
2. クローブ・ヒッチ
3. ボーライン・ノット
4. ムンター・ヒッチ
5. ダブル・フィッシャーメンズ・ノット
6. バタフライ・ノット
7. シート・ベント
8. ミュー・ノット (ムンター・ヒッチと対で出来るようにしておくこと)



(文：木原清 写真：田中康典)

9. 紀行文「念願の槍ヶ岳登山」(前田健進)

1. 登山月日 平成24年8月3日(金)～6日(月)
2. 参加者 中川博人 津田文夫 前田健進 藤江以住 4名

第1日目(8月3日)

朝5時40分曇りのなか4名で津田宅を出発した。北陸・東海北陸、高山経由で平湯あかんだな駐車場に9時に到着。タクシー(¥6000)で新穂高温泉へ行き朝食をとる。

9時55分ゆっくりした足取りで右俣林道を登って行く。しばらくして右の樹間に入り近道をして、10時30分穂高平小屋で再び林道に出たところで休止する。11時に出発してまもなく少し急坂を登り、林道終点の白出沢出合に12時に到着。とにかく暑い。休憩を取りながら、ブドウ谷、チビ谷を越え漸く滝谷出合に着き、谷を流れる水でコーヒーを沸かす。険しい岩登りの谷、滝谷初登攀した藤木九三のレリーフを見て槍平小屋に向かう。途中高度を上げると滝谷上部が更によく見えた。

午後4時槍平小屋に到着。視界が開き別天地の風景である。小川で缶ビールを冷やし皆で乾杯をする。小屋はさほど混んでいなく、6人用のところを4人でゆっくり床につく事が出来た。

第2日目(8月4日)

津田さんがこの先登山するには厳しいと判断し中川支部長と2人下山し、上高地「山研」で再会することにした。前田、藤江の2人で6時35分槍に向け出発する。飛騨沢の登りが頑張りどころだが昨日に引き続いて快晴である。奥丸山への分岐するところを通

り樹林帯に入りジグザグに登って行くと、右側から大喰岳の西尾根が迫り、左側一帯はダケカンバが鮮やかである。高度を上げ森林限界を過ぎるとあちこちにお花畑が広がり美しい。長い登りを何回もジグザグにたどり、振り返れば笠ヶ岳等の山並みがいつのまにか同じ高さになってきた。10時30分、約4時間、ようやくにして標高3,000メートルの飛騨乗越にたどり着いた。感激である。

眼前にはここまで見えなかった槍ヶ岳が大きく威圧するように立っている。槍沢越しに蝶ヶ岳・常念・大天井岳、右に向けば大喰岳である。30分の休憩をとり槍岳山荘に向かう。11時30分槍ヶ岳山荘に到着。槍の穂先を目指す登山者が行列をなしており、昼食をとりながら様子を見る。暫くすると行列が空いたので頂上に向かう事にした。鎖や鉄梯子を緊張しながら12時10分頃ついに3,180メートルの槍ヶ岳の頂上に立つ。快晴・無風の山頂広場には約20人程いた。恐る恐る腰をおろし360度の展望が広がる。

山脈の連なり、溪谷等を眺め祠で写真を撮り、約30分後下山する。13時10分山荘前で小休止し、宿泊するヒュッテ大槍に向かう。小屋は見えるが、足場が悪く14時30分ようやく到着した。

小屋からは圧巻の槍をはじめ富士山まで眺望でき、最も美しいロケーションであった。

第3日目（8月5日）

本日の宿泊予定槍沢ロッジをキャンセルし、上高地まで直接下山し山研に宿泊を変更することとし、5時45分に出発した。

本日も快晴、沢沿いの道をジグザグに降り天狗原では落下する滝、お花畑を堪能しながら、ゆっくり下山する。9時30分槍沢ロッジに着く、小休止して槍沢に別れを告げ、横尾を通過して13時、徳沢に到着した。

徳沢では中川支部長が出迎えてくれ、昼食を共にしながら登頂の経過を報告し、15時30分山研に無事到着。上高地周辺を散策していた津田さんとも合流し、3日振りの入浴と、

乾杯したビールが何とも美味かった。

山研では鎌倉から来ていた自然解説員の方から、色々話を聞いた。

第4日目（8月6日）

天候は夜半から朝にかけて豪雨となったがバスに乗る頃には、岳沢が見えるまで回復。山研を8時30分出発し高山市街を散策、昼食を取り、14時30分無事帰宅した。

今回の槍ヶ岳登山は4人揃って登頂できませんでしたが、快晴のなか念願の槍ヶ岳に登頂でき、山頂からの展望は今も脳裏に焼きついています。



滝谷ドーム（写真：中川）

今後の行事予定

参加お申込みは、各担当者もしくは事務局（前川 E-mail:maekawayo@gmail.com Tel 080-1952-7298）までお願いします。

1. ふるさと登山道整備（不惑新道・火燈古道の草木刈）

1.日時 10月20日（土）8：00～15：00

10月21日（日）7：30～13：00

2.場所 大内峠～火燈山～小倉谷山～最低鞍部手前ピークまでの間（整備必要箇所）

3.集合場所・時間 大内町火燈古道登山口 駐車場 トイレあり

（国道364号線山中温泉・丸岡トンネル入り口手前を左の旧国道入る）

午前7時50分までに集合 8：00作業開始

4.用意するもの

・鉋、鎌、鋸、草刈機など ・作業の服装、雨具 ・昼食、飲み物

5.参加申込み

・10月17日までに担当大庭まで Tel0761-72-4437 携帯 090-9449-5201

- ・ 両日またはどちらか参加できる日を連絡ください。

6. キャンプ

- ・ 10月20日（土）登山口駐車場すぐそばに便利な適地の広場あり
- ・ 各自キャンプ用具持ち寄り、テントは支部のもの個人のを借用
- ・ タと朝は共同炊事、会費2千円以内、酒・ビール各自適量持ち寄り
- ・ キャンプのみの参加もOK、炊事担当者歓迎
- ・ 作業のあとの温泉入浴、たけくらべ又はゆうゆう館（車で10分位）

7. その他：詳細は参加者に連絡します。

2. クライミング講習会

1. 日時 11月10日(土) 8:00 倉ヶ嶽駐車場集合
2. 場所 倉ヶ嶽
3. 担当 岡本明男 中川博人
4. 個人装備 ハーネス、ヘルメット、還付ビナ2枚、テープスリング3本、ロープスリング、確保器、カラビナ等登攀用具1式 昼食、水
5. その他 雨天中止
当初10月27日でしたが、諸般の都合により11月10日に延伸しました。

3. 自然観察会・秋山紅葉山行

1. 日程 H24年11月3日（土）
2. 場所 観音山（遺水観音山）
3. 担当 安田二三男 埴崎滋 長清幸子
4. 参加申込 担当者まで、メールまたは電話にて（支部名簿参考）
5. 申込〆切 10月26日（土）
6. 集合場所 能美市和気町い21-1 国造里山公園交流館（TEL0761-51-2308）
駐車場有り
 - ・ 集合時間 午前9時 国造里山公園交流館で集合後、乗合わせて仏大寺の観音山つくばね新道登山口に移動します。
 - ・ コース つくばね新道登山口（9:30）～九社谷四等三角点～観音山頂上（402m）（12:00～12:40）～観音堂跡（13:00）～遺水霊水堂（13:30）～つくばね新道登山口（14:00）
 - ・ 参加者条件 JAC 石川支部会員・会友の紹介で紹介者自らが当日被紹介者をサポートできること。
 - ・ 参考 遺水観音山は、古くから白山信仰の霊場でした。白山を開山した泰澄大師が白山の禅定よりはるか西方を眺めると、瑞雲なびく小峰があり、これは白山禅定に連なる霊地であろうと行者に命じ、自ら刻んだ観音像を背負わしてこの霊峰に奉安したのが遺水観音堂だと伝えられています。古くは観音堂の修験者が灯す明かりは、日本海を航行する舟人達の目印となり、深い信仰を得ていました。また、近代まで女人禁制の霊地であったとされています。最近では、登山口の遺水観音霊水が、平成20年に環境省の平成の名水百選に選定され、連日にぎわっています。また、平成18年に仏陀寺跡から九社谷の三角点を通り、頂上に至るつくばね新道（2,500m）が開かれ、以前からある登山道の遺水禅定道（1,250m）と頂上で合流したことにより、周回できるように

なったことから、岳人に注目され、季節を問わず多くの方々が散策を楽しんでいます。

4. 岐阜支部創立40周年記念式典

日程が「山祭り」とダブったため、山祭りを新年会に変更し、岐阜支部創立記念式典を優先します。新年会の日程等については別途お知らせします。

(友好支部の創立記念式典であるため、多数のご参加をお待ちします。)

1. 日程 平成24年11月17日(土)～18日(日)
2. 場所・内容 ○記念式典・懇親会(17日)
十八桜 Tel058-265-1551(岐阜市港町10)
槍ヶ岳山荘 穂苅康治氏の講演会ほか
○記念山行 (18日) 金華山
岐阜市にある標高329mの山。旧名稲葉山(いなばやま)。
岐阜市のシンボリック的存在で、市民の憩いの場となっている。
夜景が美しく県外から訪れる客も多い。
3. 会費 18,000円～3,000円からの選択(除く 交通費)
車両乗合で行動しますので、交通費は参加者割とします。
<参加コース> *金華山登山でロープウェイ利用者は、自己負担となります。
①式典、講演会、記念品、レセプション、宿泊、金華山登山・・・・・・18,000円
②式典、講演会、記念品、レセプション、金華山登山・・・・・・10,000円
③式典、講演会、記念品、金華山登山・・・・・・ 3,000円
④式典、講演会・・・・・・ 無料
4. 申込み 10月9日(火)までに、事務局(前川)まで、メールもしくは電話にて。
*その際、必ず希望コースをお知らせ下さい。

お知らせ

1. 深田久弥山の文化館開館10周年記念講演会

1. 日時 10月27日(土) 14:00～15:30
2. 場所 加賀市大聖寺八間道 「加賀市大聖寺地区会館」2Fホール
3. 演題 エベレストを撮影して
4. 講師 山村武史 NHK金沢放送局カメラマン
(NHKグレースサミットの放送でおなじみのカメラマンです)
5. 駐車場 加賀市民病院 駐車場が開放されます。
6. その他 聴講無料

2. 山岳雑誌「新ハイキング」記事

「株新ハイキング社」発行の定期刊行物「新ハイキング」9月号に石森長博会員が執筆された記事が掲載されています。

「～木地小屋跡から登る信仰の山～」として、「加賀大日山」が掲載されています。
コースの解説のみならず、石森さんらしい歴史的な背景も興味深く紹介されており、同山を知る上で大変参考になります。
なお、8月号では、「木曾御嶽山」が掲載され、10月号では「己高山」11月号では「高野山」のガイドの記事が掲載される予定です。

3. 2012年 年次晩餐会 イベント企画のご案内（本部より）

今年度の年次 晩餐会は12月1日（土）に開催いたします。イベント企画として、図書委員会による「図書交換会」を行います。同会場にて支部の皆さまによる図書の紹介、販売のコーナーを設けることにいたしました。特に地域に根ざした山岳関係の図書、会報や海外遠征の報告書などの展示、販売を期待しております。ご参加とご協力を、よろしくお願い申し上げます。

4. その他

個人山行等報告〔H24 年前期分（4月～9月）〕の依頼について

本年度前期分の個人山行ならびにボランティア活動の報告をお願いします。
報告は、メールまたは、郵送でお願いします。
なお、FAXは字がつぶれ解釈に難儀しますので、極力ご遠慮願えれば幸いです。

<送付先：事務局>

〒920-3116

金沢市南森本町ト 69-1

前川 陽（akira）

E-mail: maekawayo@gmail.com

TEL・FAX 076-258-3747

（記載例）

* 個人山行 ⇒ 9/25～28 立山～劔岳 佐藤、鈴木

* ボランティア活動 ⇒ 10/3 山岳講演（山岳救助について） 白山市民ホール 佐々木